News of the forest

岐阜県の森林・林業

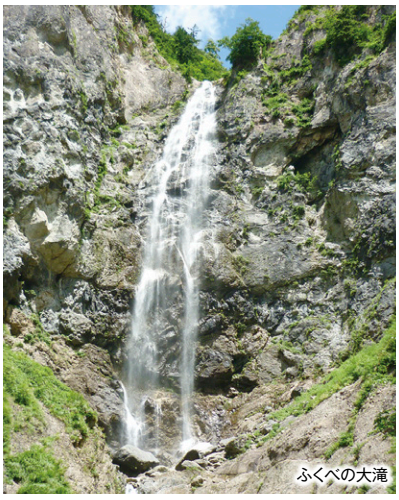
森林のたより

白山白川郷ホワイトロード開通（6月15日）
～数々の素晴らしい滝をご覧下さい～

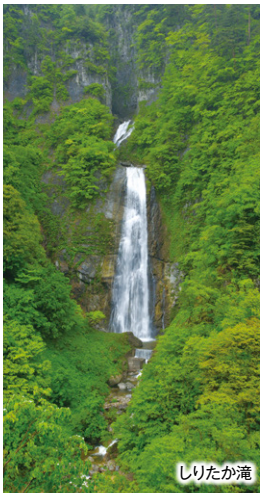
No.777
2018 June
6

FREE
ご自由に お持ちください。

かもしか滝


ふくべの大滝

姥ヶ滝


しりたか滝

●詳しくは6ページをご覧下さい。

編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会
E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp
http://www.g-forestry.or.jp （公社）岐阜県山林協会の情報をご覧いただけます。

森林・林業関係イベントカレンダー（6月～7月）

一般向け

開催日	行事名等	内　容　等 （概要、定員、受講料、申込期限など）	開催場所 問い合わせ先
6月9日㈯～ 6月10日㈰	**ぎふの木フェスタ2018**	●子どもから大人まで丸ごと1日「ぎふの木」に親しみ、楽しめるイベントです。 ●**開催時間**：10:00～16:00 ●**内容**：木のおもちゃ広場、木の国探検「巨大迷路」、子どもアスレチック、親子木工教室などの体験イベントを開催します。また、ぎふの木ビンゴ大会、丸太いす抽選会や木工品などの販売を行います。 ●入場無料	岐阜メモリアルセンター「芝生広場」 （岐阜市長良福光） 岐阜県林政部県産材流通課 TEL 058-272-8486 FAX 058-278-2705
7月3日㈫	**狩猟免許試験講習会（わな）**	狩猟免許試験を受験される方を対象とした無料の講習会を開催します。 ●**時間**：10：00～15：30 ●**申込**：6/11～6/25 ※事前に申し込みが必要です。詳しくは右記にお問い合わせください。	白川町町民会館 （加茂郡白川町河岐 1654-1） 岐阜県猟友会 TEL 058-272-8398
7月12日㈭	**狩猟免許試験**	狩猟免許取得のための試験を実施します。 ●**時間**：9：30～17：00 ●**申込**：6/14～6/28 ※事前に申請書類等の提出が必要です。詳しくは右記にお問い合わせください。	飛騨・世界生活文化センター （高山市千島町 900-1） 各地域を所管する県事務所、 又は環境企画課 （TEL 058-272-1111 内線 2701）
7月12日㈭	**「山の日」シンポジウムin中津川**	●**内容**：「山の日」の趣旨を普及するため、シンポジウムを開催します。 ●**時間**：13：30～16：00 ●**参加料**：無料 ※詳細は21ページをご覧ください。	中津川市東美濃ふれあいセンター （中津川市茄子川 1683－797） 岐阜県環境企画課 TEL 058-272-1111 内線 2697 担当　中村、野田
7月13日㈮	**平成30年度岐阜県森林研究所「研究･成果発表会」**	●**内容**：森林研究所で取り組んでいる森林管理や森林資源の活用に関する研究内容を紹介します。 ●**時間**：13：15～16:10（予定） ●**参加料**：無料 ●**事前申込**：必要（FAX、電子メール、郵送にて）	わかくさ・プラザ （関市若草通２丁目１番地） 森林研究所（美濃市曽代 1128-1） TEL 0575-33-2585
7月22日㈰	**森林文化アカデミーオープンキャンパス**	岐阜県立森林文化アカデミーは、林業、森林環境教育、木造建築、木工の分野で活躍できる人材を育成している専修学校です。入学を検討されている方を対象に、オープンキャンパスを開催します。 ●時間：10：00～16：00 ●内容：学校紹介、教員との面談、在学生との交流、入試過去問の配布等 ●参加費：無料 ●事前申込：必要（ホームページから）	森林文化アカデミー （美濃市曽代 88） 森林文化アカデミー TEL 0575-35-2525 FAX 0575-35-2529 E-mail info@forest.ac.jp URL　http://www.forest.ac.jp/

目次 Contents

イベントカレンダー（一般向け）……2
ぎふの木フェスタ２０１８……3
山の歳時記(154) ヤマボウシ……4
１００年先の森林づくりシリーズ２
森林区分毎の森林整備の支援……5
「ぎふの木のおうちすごろく」を作成しました……5
白山白川郷ホワイトロードが全線開通します……6
水源林見学会参加者募集……6
林地開発許可制度について……7
平成30年度山地災害防止キャンペーン……7
森の名手・名人シリーズ(46) 木目にこだわり、美を引き出す
―全ての工程を手掛ける木地師の思い―……8
「森のジョブステーションぎふ」が開所しました！……10
平成30年度 狩猟免許試験と免許講習会のご案内……11
山のおじゃまむし(323) ―そうなんやさー、アメンボ―……12
わがまちの森林・環境行政(18) 池田町の森林づくり……13
森林と人を活かす知恵(66) 夏の暑さを防ぐには・・・緑が有効？……14
木の香るぎふの施設(64) 東濃信用金庫白川支店……15
治山・林道研究課題
ＤＥＭデータを活用した土砂移動の解析……16
研究コーナー
和紙の原料コウゾの成長を、米粒サイズのヨコバイが妨げる……17
普及コーナー 可茂地域における普及活動について……18
国有林の現場から(21) 裏木曽登録ガイド制度の取組について（前編）
東濃森林管理署の取り組み……20
「山の日」シンポジウムin中津川……21
林業者向けお知らせ……21
市況……22

岐阜県の森林・林業
News of the forest
森林のたより
No.777
2018 June
6

表紙●白山白川郷ホワイトロード開通（6月15日）

ぎふの木フェスタ2018

子どもから大人まで丸ごと１日「ぎふの木」に親しみ、楽しめるイベント！

来場無料

6/9(土)・10(日)

木のおもちゃ広場、木の国探検「巨大迷路」、木のジャングルジム組立・解体、子どもアスレチック、親子木工教室などの体験イベントが盛りだくさん。

また、ぎふの木ビンゴ大会、丸太いす大抽選会や木工品などの展示・販売を行います。

開催時間 10:00～16:00

場所 岐阜メモリアルセンター「芝生広場」

主催 岐阜県

共催 (公社)岐阜県山林協会、岐阜県森林組合連合会、岐阜県木材協同組合連合会、
(公社)岐阜県緑化推進委員会、岐阜県木材利用推進協議会、
(一社)岐阜県森林施業協会、岐阜県林業グループ連絡協議会

内容 40種類以上の多彩な体験ブースが集合

- 巨大迷路
- 巨大すごろく
- 木工クラフト体験
- 丸太切り体験
- ステンシル絵付け
- 竹細工づくり
- アルプホルン体験
- パターゴルフ
- アクセサリーづくり
- ウッドバーニング
- 東濃桧マイ箸づくり
- かんな削り体験

など

お問い合わせ 岐阜県林政部県産材流通課

〒500-8570　岐阜市薮田南2-1-1　TEL.058-272-8486

ぎふの木フェスタ　検索

山の歳時記 154
YAMA NO SAIJIKI

ヤマボウシ

文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

6月の飛騨の山々を彩るヤマボウシの花。白く先端がとがった花弁のように見える部分は総苞片と呼ばれる組織です。

このヤマボウシ（Cornus kousa）の和名は、花の中央にある丸い集合果を法師の頭（比叡山の僧兵の頭）に見立て、白い総苞片を白衣（しろごろも）に見立てて「山法師」と呼んでいた美濃や尾張の地方名が由来です。

全国的には新潟～福井に至る日本海側、三重、和歌山、京都、兵庫、鳥取、愛媛、高知ではイツキ、ウツキと呼ばれ、山形ではダンゴギ、秋田や山形、群馬、埼玉、長野、新潟、静岡ではヤマグワなどの別名で呼ばれました。ちなみに学名に使われる「kousa」とは箱根での別名「コーサ」に由来します。

万葉の時代にはツミ（柘）と呼ばれたとする考え方もあり、『万葉集』には〝この夕（ゆうへ）柘（つみ）の小枝（さえだ）の流れ来（こ）ば 梁（やな）は打たずて 取らずかもあらむ〟と若宮年魚麻呂が詠んだ歌が記されています。

これは既に万葉時代にあった伝説「柘枝（つみのえ）の伝説」に関係して詠まれたもので、その伝説の内容は「昔、吉野の里に住む美稲（うましね）という若者が、吉野川に魚を捕る梁（やな）をつくってアユをとっていました。ある日、上流から柘の枝が流れて来て梁にかかったので、家に持ち帰ったら柘の枝が美しい女性になり驚いたものの、彼女を妻に迎えて毎日幸せに暮らした。」というものです。つまり、歌の内容は「この夕べに仙女が化したという柘の枝がもし流れてきたならば、梁をつくって手荒な捕らえ方をしないで、それを取れないものだろうか。」という意味のです。

ところでヤマボウシの材は、重硬で割れにくい特徴から、槌や農機具の柄、鉋台、撞木、水車の歯車、餅つきの杵材としても重宝されました。

旧徳山村（現揖斐川町徳山）では、雪崩避けの呪文として〝前クロモジに、後ボウシ・・・〟と唱えました。これは輪かんじきの前輪をクロモジ材で、後輪をヤマボウシ材で作れば、雪崩に遭って走っても壊れないほど頑丈にできることを意味した口伝なのです。

『大日本有用樹木効用編（1903年）』には、「材は堅実なるを以てカシのなき寒国にてはカシに代用して鉋台、鑿柄、槌其の他農耕具の柄、油搾器械、櫂等に用ひ又下駄の歯とす併し堅に過ぎて滑る患あり又櫛材旋作用材となす。実は食して甘味あるも種子多し此樹の葉サンシュユに似て美にして上品なり故に庭園樹に宜し」と記されているように多方面に重宝された樹木なのです。

▲4枚の花弁のように見えるのが総苞片です

100年先の森林づくりシリーズ 2

第３期岐阜県森林づくり基本計画(H29～H33)では、望ましい森林の姿へ配置転換する「１００年先の森林づくり」、林業経営を重視した「生きた森林づくり」、環境保全を重視した「恵みの森林づくり」に取り組んでいます。これらの取組状況について、隔月連載でご紹介します。

１００年の森林づくり計画実践プロジェクト

森林区分毎の森林整備の支援

「１００年の森林づくり計画」では、気候や地形、法規制等の諸条件を踏まえたうえで、県内のすべての民有林を「木材生産林」または「環境保全林」のいずれかに区分し、必要に応じ、これらに重複する形で「観光景観林」と「生活保全林」を設定することとしています。そして、４つの森林区分に応じた整備方針に基づいた森林整備を推進しています。

林業経営に適した場所の「木材生産林」では、木材資源の循環利用を促進するための搬出間伐や主伐後の再造林を重点的に支援しています。水源林や急傾斜地などの「環境保全林」では、針広混交林や広葉樹林化のための間伐を支援しています。また、観光道路沿いの「観光景観林」では観光資源の価値を高めるための修景作業を、集落周辺の「生活保全林」では住民の安心・安全のための里山林の修景作業や危険木の除去などを支援しています。

木材生産の様子（東白川村）

間伐後の環境保全林（関市）

１００年の森林づくり計画実践プロジェクト

「１００年の森林づくり計画（森林配置計画）」を実践するため、多様な苗木の供給、育種・育苗の研究・普及等を行うとともに、４つの森林区分に応じた整備方針に基づき、森林整備を実践するために必要な制度の導入・支援を行い、着実に森林の配置転換を行うプロジェクトです。

【森林整備課　石田 尚孝】　●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 森林整備課まで

「きふの木のおうちすごろく」を作成しました

県産材普及啓発資料作成委員会（構成員：(公社) 岐阜県山林協会、岐阜県木材利用推進協議会、岐阜県）では、「木の国・山の国県民会議 木づかい部会」の意見を伺いながら、就学前の子育て世代の親子を対象としたすごろくゲームを作成しました。

住宅や家具、おもちゃなどを通して木に触れて豊かに暮らす「木のある生活」を提案する資料を作成することからスタートしたのですが、木材の効果や森林整備の必要性を解説したリーフレットを配布して、どれだけの方に読んでもらえるのだろうかという疑問から、親子で遊びながら森林や木材について学ぶことができるすごろくゲームを採用することとなりました。

山の手入れをさぼったら土砂崩れが発生しスタートへ戻ったり、木で作られた身近なものを持ってくるミッションや、木の家の良さを学ぶエリアがあるなど、工夫を凝らしたものとなりました。また、マスに書いてある内容については、裏面の解説を読めばどうしてなのかを理解することが出来、更に詳しく知りたければQRコードからインターネットで調べることが出来るようになっています。

今後、県内の保育園・幼稚園などに配布予定ですが、ご希望がありましたら、県産材流通課までお問い合わせください。

【県産材流通課　三輪哲司】

白山白川郷ホワイトロードが全線開通します

白川村と石川県白山市を結ぶ山岳有料道路「白山白川郷ホワイトロード」は、6月15日（金）午前10時に全線開通します。

白山国立公園特別保護地域の山岳地帯を通過する「白山白川郷ホワイトロード」は、この季節、残雪と新緑の両方を楽しむことができます。壮大な山々の風景や、渓谷から吹き上がる冷涼な空気が、爽やかな世界を感じさせてくれます。「白川郷展望台」や「ブナ原生林遊歩道」での森林散策など、「白山白川郷ホワイトロード」の大自然をぜひお楽しみください。

なお、詳しい情報は、白山林道岐阜管理事務所にお尋ねいただくか、ホームページでご確認ください。

【治山課　増田 龍太】

通行料金

軽自動車	1,400円
普通自動車	1,600円
マイクロバス	4,900円
大型バス	10,800円

お問い合わせ先
白山林道岐阜管理事務所
TEL/FAX 05769-6-1664
http://hs-whiteroad.jp/

※ブナの芽吹き

水源林見学会参加者募集

毎年、参加者から大好評をいただいている「水源林見学会」を今年も開催します。

この見学会は、公益社団法人木曽三川水源造成公社主催によるもので、木曽三川（木曽川、長良川及び揖斐川）流域の愛知、岐阜、三重にお住まいの方の参加を募集します。

見学会では、水源となる森林の大切さを理解していただくため、森の健康診断や水源林を守るための間伐体験を行います。

夏の思い出づくりにぜひご参加ください。

【開　催　日】 平成30年8月4日（土）
【場　　所】 岐阜県中津川市の水源林
【集合場所等】 ＪＲ岐阜駅中央北口に8時集合、バスで現地へ移動
ＪＲ岐阜駅に17時頃到着・解散予定
【参加対象】 愛知、岐阜、三重県内にお住まいの小学生とその保護者
（保護者同伴。40名程度）
【活動内容】 森の健康診断、山仕事（間伐）体験等
・生えている木を実際に伐っていただきます。
・雨天の場合は、木工教室に変更予定。
・作業ができる服装でご参加ください。
【参　加　費】 無料
【応募方法】 はがき又はEメールに住所、参加者全員の氏名、ふりがな、年齢、生年月日、性別、電話番号を明記のうえ応募
応募者多数の場合は抽選（応募者全員に抽選結果をお知らせします。）
【応募期間】 7月13日（金）必着

お申込み、お問合わせは、公益社団法人木曽三川水源造成公社までお願いします。
【住　　所】 〒501-3756　美濃市生櫛1612-2　中濃総合庁舎5階
【電話番号】 0575-33-4011（内405）
【ホームページ】 http://www.kiso3sen.org/
【Eメール】 desk@kiso3sen.org

【治山課　増田 龍太】

林地開発許可制度について

きれいな水や空気を育み、自然災害を防ぎ、生活環境を守るなどの働きで、私たちの暮らしを支えてくれる森林。その大切な森林の働きが、無秩序な開発で損なわれないよう設けられているのが森林法の「林地開発許可制度」です。

開発事業を計画されている方へ

●対象となる森林や規模は？

全ての森林（保安林以外の民有林（地域森林計画対象民有林））において1ヘクタールを超える開発を行う場合は、事前に申請し、知事（農林事務所長）の許可を受けることが必要です。

●許可の基準は？

次の４つの森林の働きが、開発事業によって損なわれるおそれがないか審査します。

災害を防ぐ働き	水害を防ぐ働き	水を育む働き	環境を守る働き
周辺に土砂の流出や崩壊、その他の災害を発生させるおそれがないこと。	計画地の流域内に水害を発生させるおそれがないこと。	地域の水量･水質などに影響を与え、水の確保に支障をきたすおそれがないこと。	周辺の環境や景観を悪化させるおそれがないこと。

●罰則強化について

無許可で開発を行ったり、許可条件に対する違反行為があった場合は、森林法に基づき、「中止」や「復旧」を命ぜられることがあり、悪質な場合には罰則が科せられます。

なお、平成２９年４月より罰則が強化されました。

罰金150万円以下 ➡ **懲役３年以下　又は 罰金300万円以下**

土地の所有者の方へ

私法上、土地所有者には、土地の管理責任があり、所有地で災害が発生し、他人の生命や財産などに被害が生じると損害賠償請求の対象となる場合があります。

所有する土地を貸出などで開発用地として提供される際には、これらのリスクを認識して頂き、開発事業を行う方に対して次のことを確認し、ご納得頂いたうえで提供してください。

- **開発中の防災対策の内容**
- **開発完了後の土地の管理についての内容**
- **開発が中断･廃止されることになった場合の取り扱い**

など

【治山課　長谷部 達也】　●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8528 治山課か最寄りの県農林事務所までお問い合わせください。

平成30年度 山地災害防止キャンペーン

近年、全国至る所では集中豪雨等により山地災害が多発し、人命･財産に甚大な被害が及んでいます。こうしたことから、岐阜県では県民の皆さんに山地災害に対する防災意識を高めてもらうため、林野庁、県及び市町村が一体となって、「山地災害防止キャンペーン」を実施しています。

今年度のキャンペーン期間は、平成３０年５月２０日から６月３０日です。

岐阜県では、各農林事務所や市町村役場等に山地災害防止キャンペーンポスターを掲示するとともに、市町村の広報誌に関連記事を掲載しています。

さらに、山地災害危険地区の周辺にお住まいの方たちを対象に現地説明会等でのＰＲ活動も行っています。

また、キャンペーン関連行事として、山地災害防止標語及び写真コンクールが実施されますのでたくさんの応募をお願いします。

現地説明会

防災ポスター掲示状況

市の災害対策協議会における説明

※写真は平成29年度に実施したキャンペーンの状況です。

【標語及び写真コンクールの応募先及び問い合わせ先】

（一社）日本治山治水協会　標語･写真コンクール係　TEL 03-3581-2288　FAX 03-3581-1410

【治山課　加藤 里実】　●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8526 治山課治山係まで

森の名手・名人シリーズ46

名人 小林 一雄（67）
岐阜県恵那市

聞き手 髙森 かな
岐阜県 麗澤瑞浪高等学校1年

平成27年取材

「森の名手・名人」とは、森に関わる仕事や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもってその業を極め、他の模範となっている達人で、毎年、全国で約100名が認定されています。岐阜県においては、現在、50名の「森の名手・名人」が認定されています。

この「森の名手・名人」を「森の"聞き書き甲子園"」に参加した高校生が「聞き書き取材」をしたものの中から誌面の関係上要点を抜粋したものです。なお、年齢、住所、学年は取材当時のものです。

木地師
木目にこだわり、美を引き出す
―全ての工程を手掛ける木地師の思い―

僕がこの仕事を選んだことや、親父から修業ができたことに誇りを持ってやっとります。

1. 木地師って言うのは

元々木地師って言うのは、桶を作ったり木を彫ったり、要するに木に関わるような人のことやったの。しゃもじを作ったりお椀を作ったりする人も皆、木地師って言われてたのね。ほやけど、昔に皆それぞれの得意な分野に分かれたの。大体、挽物（ひきもの）、指物（さしもの）、刳物（くりもの）と3種類に分かれとるね。挽物は、ロクロを回しながら刃物で削って、お盆とか器を作るの。指物は、木と木を組んで、机とかの家具を作るの。刳物は、四角い物とか楕円の物みたいな、ロクロで回しながらできん物を、手で彫ったりすることやね。でも今は、僕んたちみたいなロクロをやっとる人が、主に木地師って言われとるね。

日本の手仕事の歴史ではね、作る物を固定させて、手に持った道具で、削ったり、切ったり、張ったり、塗ったりして物を作るんやね。でも、作る木の器を手挽きロクロで回転させて、刃物を使って形を整えて器を作り出す。こんな作業工程は、日本の工芸史の中でも木地師だけの仕事やね。ほやから、

仕上げ挽きの様子

2. 製材から漆塗りまで一貫して

うちは、材料を各務原の方で仕入れて、自分で製材して、漆塗りをするところまで一貫してやっとるの。一般的に、漆塗りは別の職人さんに仕上げてもらうことが多いけど、僕は漆塗りまで、自分の所でやることにこだわってるね。最後の仕上げの漆塗りは、女房や息子も、今、勉強してますね。元々僕は、木の表情を、木目の美しさを表現するために木地師になったようなもんやで、作り甲斐はあるわね。漆は自然環境の中で水分がないと乾かんもんで、冬に塗る時なんかは、本当に苦労するの。でも、自分たちの環境でどう塗るかとかも、長年かけて培ってきたもんでね。

木目を生かした漆塗りにこだわる

3. 道具も自分の手で

「思うようなものを作りたい」っちゅう思いがあるもんで、ロクロ鉋の刃の部分も柄の部分も全部、木地師が自分で自分に合った形を作るの。刃物を作ることは基本やからね。扱う木の状態に合わせて、刃先を作るの。刃物の材質としては高速度鋼（こうそくどこう）を使っとるの。柄は、自分の所の材料の中でも、加工中にあたってもショックが少ない柔らかい木を使ってます。欅（けやき）とは違って、柔らかい栃（とち）とか栓（せん）を柄にするの。

刃物を作る時には消炭（けしずみ）を使っとるね。買ってきた炭では当たりが硬いもんで、火花が出ちゃうもんでね。そういう炭は荒いもんだから、刃物の周りのすき間が多くなりすぎちゃうの。だから、消炭が丁度いいの。だから木を燃やして、わざわざ自分で作るの。

4. 自然の恵みは無駄なく使う

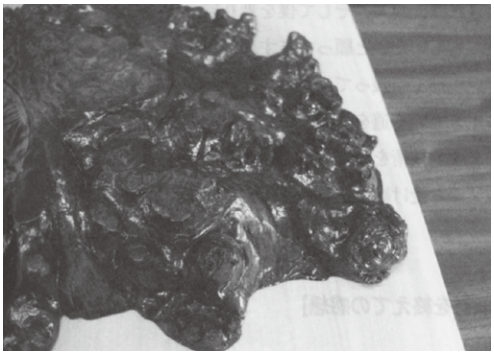
木を沢山切って、ロクロでお盆とかを作ると、中になる所は捨てちゃうでしょ。それを「もったいない」って言う人も中にはいるのね。でも、作った物を、長く何十年にも渡って使えるっちゅうことは、凄いエコなんですね。僕らは自分が気に入った木を買ってきますので、できれば最後まで使えれば良いんですけど、やっぱり捨てないかん所もあるもんでね。こういう所はちょっとした器や小物を作るとかね、なるべく無駄にはしないつもりでいますね。それでも余った木の切れ端は、炭を作ったり、乾燥庫で焚いたりして、有効に使わしてもらっとるね。

5. 瘤に惹かれて

やっぱり、自然の木っちゅうもんは美しいよね。どんな木でもそうやけど、幹に瘤ができる木と、できん木があるの。同じ木でも、普通の木目と瘤の木目では全然違うってね。僕は、伯父さんが作ったった、瘤を取り入れた器とかを仕入れて売ってたの。

その時に、この木目程ではないけど、これに近い木目を見た瞬間、「おぉ!!」って、心が震える様な気持ちになったの。「木にも色々な表情があって凄い」っていう感動があってね、こんな木との出会いがあったからこそ、今があるんだって思っとるね。

普通の木目でも同じのはないけど、似た感じのは揃えれるんやね。だけど、瘤の付いとる木は、本当に希にしか出ないもんで、頼まれても中々注文には応えれんよね。



原型の瘤が見られる栃の器の裏側

6. 宿木の美

宿木(やどりぎ)っちゅうのは、木の枝にできた傷に、種が飛んできて、そこから根っこを張って、木の栄養を吸って育つのね。だから、木を切った時に葉っぱも根っこも死んじゃうから、根っこがスルンと取れて、木に穴が沢山開いちゃうの。

昔は、穴の開いとる宿木はゲテモノって言われて、皆買わなんだの。でも僕は直感で「これは面白い」と思ったもんで買ったの。その時、市場の人から「これは欅材の中でも特別で、宿木というんやよ」って教えてもらったの。僕は「この原木で、何か作ると面白いやろうな」って思ってね、お盆をはじめ、何点かを作品展に出したの。その時に俳句の先生が来て「宿木はね、万葉集の中に歌ってあるよ」っちゅうて。それで調べたら、宿木のかんざしを好きな人の頭に挿してあげたっちゅうような歌があってね。その他にも、世界的には、儀式なんかで使われたりしとるの。

宿木みたいに、穴が沢山開いとるのは、伝統工芸展には出せんけど、自分の個展には出しとる。個展の時には、こういう結構変わったものでも喜ばれるんやよ。最近、皆がこうゆう物を買うようになったちゅうことは、宿木の美に対する想いが分かってもらえた気がして嬉しいね。

1年中緑の葉を茂らせる宿木※

7. 扱いにくいからこその魅力

世の中には色々な人がおるもんでね。でも、それは木にも言えることで、木目が美しく出る木とか、粘っこい木とか、割れやすい木とかね。硬い木なんかは特にそうやけど、漆を塗らんでもチカッと光る木もあるもんでね。ほんで面白いよね。そういう木を見た時に「おっ!!」って思うか思わんかだけやと思うの。今はどっちかっちゅうと、そういう木の方が、味のあるものができるんやね。手をかけりゃあかけただけ、魅力が出るっちゅうことやね。

その中でも、扱いが難しいって言われとる神代(じんだい)っちゅう木があるの。神代は、千年以上土の中に埋もれた木のことで、「埋もれ木」とも言われるの。こういう木で作品を作ろうとすると、今まで土の中で抑圧されとったやつが一気に外へ出ちゃうもんで、割れたり狂ったりしやすいの。ほやから、大きい木はなかなか珍しいし、宝石を探すようなつもりで探しとる人もおったりするの。

8. これからの目標「守・破・離」

ありがたいことに、最初に親父の仕事を見てたからね。綺麗に仕上がった親父の作品が常に手本やった。技術面でも精神面でも、近づけようっちゅう目標が常に身近にあった。それに向かってやって来れたから、日本工芸会の正会員にもしていただけたのかも知れんね。

「守・破・離」っちゅう言葉があってね。昔からの決められた型や伝統を守ることは基礎として大事やと思う。以前はそれが大事やと思っとったし、展覧会の審査でも、そっちの方が認めてもらえることが多かった。でも、僕らも、同じものを100も200も作ると飽きるし。ある程度は楽しんで物作りをしたい時期やね。今は、「破」や「離」の部分も、楽しみたいと思っとる。昔からの伝統は大切に、自分がやりたいことには、どんどん挑戦していきたいね。それで、木の温もりをみんなに伝えて、個展なんかやった時に、お客さんが「いいねぇ」って言ってくれるのが喜びやね。

今回、息子が継承することになりました。けど、僕自身、木工の仕事の大変さをよく知ってるから、とても後を継げとは言えなくて…。自分から進んで「僕、ロクロをやりたいけど」ってことだったので、苦労することは間違いないと思うけど。後を継いでもらえば、この後もずっと親父から僕、そして三代目のような形で、木地師としての技術を継承していけることを嬉しく思ってます。できれば、親父、そして僕を乗り越えられるような技術を身に付けてもらいたいと願ってます。それを、一生懸命補佐しないかんで、現役で頑張って、少しでも息子の生きていく道を開拓してあげなくちゃいけないと思って、やってます。技術を全部は伝えることは無理かもしれんけど、せめて親父から受け継いだ技術を伝えていきたいですね。

[出典情報]
※「写真」ヤドリギ
http://yasousuki2.exblog.jp/8977492/

名人 小林(こばやし) 一雄(かずお)さんのプロフィール

●生年月日：昭和23年4月18日生まれ
●職業：木地師

会社員を経て、28歳の時に父親に師事し、木地師の道を歩み始め、恵那市東野で「小林ロクロ工芸」を創業。

平成6年に第6回伝統工芸木竹展で入選後、多くの入選を重ねる。

平成13年に岐阜県卓越技能者(名工)として知事表彰。

平成18年には、木地師としては、岐阜県で初めて「日本工芸会」正会員に認定。

平成23年には、第23回日本煎茶工芸展「栃こぶ拭漆高坏」で文部科学大臣賞を受賞。

その後も日本伝統工芸展などに出品し、入選を重ねるなど、高い評価を受けている。

また、地域の木工教室の講師やインターンシップの受け入れにも積極的に取り組み、ご子息を後継者に、技術の伝承とともに、多くの優れた作品を生み出されている。

※原本は長文のため、文章の一部を割愛しています。

【森の名手・名人編集担当
公益社団法人
岐阜県緑化推進委員会　専務理事　黒﨑隆司】

「森のジョブステーションぎふ」が開所しました！

平成３０年４月５日（木）に岐阜県中濃総合庁舎において「森のジョブステーションぎふ」の開所式を行いました。会場には、関係団体をはじめ、多数の皆様に駆けつけていただき、「森のジョブステーションぎふ」の新たな門出を祝いました。

開所式では、主催者である古田肇岐阜県知事の挨拶のあと、来賓を代表して岐阜県議会議員の佐藤武彦様、岐阜県森林組合連合会代表理事会長の洞口博様よりご祝辞をいただきました。

その後、これからの岐阜県の林業を担う若き森林技術者を代表して、岐阜県立森林文化アカデミークリエーター科の中田智康さん、有限会社古川林業の長谷川優美さんのお二人から、「森のジョブステーションぎふ」への期待と次世代を担う森林技術者としての力強い決意表明をいただきました。

最後に、「森のジョブステーションぎふ」事務室前において、古田知事と弊社理事長の竹内和敏の手により、岐阜県産ヒノキ製の看板が設置され、大きな拍手とともに開所式を終えました。

こうして、新たにスタートした「森のジョブステーションぎふ」では、就業相談から技術習得、定着までを一貫して支援するための各種サービスの提供に努めてまいります。

また、「林業のことを知りたい」、「自分でもできるだろうか」など、様々な疑問や相談について、ベテランの専門スタッフが丁寧にお応えします。林業に興味をもった方は、お気軽に森のジョブステーションぎふへご相談ください。

【問合先：森のジョブステーションぎふ】

所在地　岐阜県美濃市生櫛1612番地2　岐阜県中濃総合庁舎1階
公益社団法人岐阜県森林公社内

電話番号　0575-33-4011（代表）
※「森のジョブステーションぎふ」を呼び出してください。

ＦＡＸ　0575-46-8408

E-mail　m-job@gifu-shinrin.or.jp

休所日　土曜日、日曜日、祝日、年末年始

平成30年度 狩猟免許試験と免許講習会のご案内

狩猟や有害鳥獣の捕獲に必要な狩猟免許の試験と受験される方を対象とした無料の講習会を実施します。

平成30年度狩猟免許試験

■試験の日時及び場所等

日　時	場　所	免許の種類	申請書の受付時間
7月12日(木) 9:30~17:00	飛騨･世界生活文化センター(高山市千島町900-1)	全て	6月14日(木)~6月28日(木)
8月 4日(土) 9:30~17:00	可茂総合庁舎大会議室(美濃加茂市古井町下古井2610-1)	全て	7月6日(金)~7月20日(金)
9月22日(土) 9:30~17:00	岐阜大学全学共通教育講義棟(岐阜市柳戸1-1)	全て	8月24日(金)~9月7日(金)
11月17日(土) 9:30~17:00	中濃総合庁舎大会議室(美濃市生櫛1612-2)	わな 第一種	10月19日(金)~11月2日(金)
12月11日(火) 9:30~17:00	恵那総合庁舎大会議室(恵那市長島町正家後田1067-71)	わな猟	11月13日(火)~11月27日(火)

■狩猟免許の種類

免許の種類	使用できる猟具
網猟免許	網(むそう網、はり網、つき網、なげ網)
わな猟免許	わな(くくりわな、はこわな、はこおとし、囲いわな)
第一種銃猟免許	装薬銃(ライフル銃･散弾銃)、空気銃(圧縮ガス銃を含む。)
第二種銃猟免許	空気銃(圧縮ガス銃を含む。)

■手　数　料　試験の新規受験者　　免許1種類につき5,200円
試験の新規受験者で学生の方　　免許1種類につき2,600円
狩猟免許取得者が別の狩猟免許を取得しようとする場合 免許1種類につき3,900円

■受験対象者　岐阜県内に住所を有し、網猟及びわな猟にあっては18歳以上、第1種銃猟及び第2種銃猟にあっては20歳以上の者
（鳥獣保護管理法第40条第2号から第6号の規定に該当する方は受験できません。）

■提出書類　岐阜地域環境室又は各県事務所環境課、環境企画課で配布しています。
http://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/kankyo/shizenhogo/c11265/syuryo.htmlからダウンロードすることもできます。

■提　出　先　住所地のある岐阜地域環境室又は各県事務所環境課

平成30年度狩猟免許講習会

講習の受講は希望者のみ。事前に申し込みが必要です。
問い合わせ先：(一社)岐阜県猟友会(TEL：058-272-8398)

日　時	場　所	対　象
6月 8日(金)	高山市民文化会館(高山市昭和町1-188-1)	わな猟
7月 3日(火)	白川町町民会館(加茂郡白川町河岐1645-1)	わな猟
8月21日(火)	岐阜産業会館(岐阜市六条南2-11-1)	第一種･第二種銃猟
10月 6日(土)	郡上市総合文化センター(郡上市八幡町島谷207-1)	わな猟
10月13日(土)	郡上市総合文化センター(郡上市八幡町島谷207-1)	第一種･第二種銃猟
11月13日(火)	瑞浪市総合文化センター(瑞浪市土岐町7267-4)	わな猟

（主催者：岐阜県、受託者：(一社) 岐阜県猟友会）

山のおじゃまむし

ー そうなんやさー、アメンボ ー【第323回】

自然学総合研究所　野平 照雄 ● *Teruo Nohira*

早いものでピョンチャン（平昌）オリンピックが終わって1ヶ月が経過した。連日テレビで放映された選手たちの熱い闘い。今でもその光景が目に浮かぶ。どの選手も厳しい練習に耐え、力と技を磨いてきた超一流のアスリートばかりだ。それだけに栄光を手にした選手の満面の笑み。思わず拍手を送りたくなる。逆にあと一歩のところで手が届かなかった選手。その悔しい表情には胸がつまった。時には勝者と敗者が抱き合い、お互いの健闘をたたえあっていた。この姿を目にし、これが本当のスポーツマンだと心がなごんだものである。また、パラリンピックの選手の闘う姿には感動した。障害というハンディを背負いながら、それを感じさせないあの迫力あるスキーの滑り。転倒しても諦めず、起き上がって最後まで滑り続けた選手もいた。この気力と精神力には敬服してしまう。歳とともに気力が萎えていく自分自身。闘う前から敗者だと情けなくなる。「オリンピックは参加することに意義がある」という。まさにその通りであろう。しかし、オリンピックも勝負の世界。勝たなければならない。特にメダルを獲得すると脚光を浴び、一躍有名になるからだ。私自身、メダルを獲って初めて知った選手が何人もいた。これらの選手を含め特に印象に残っているのは、スピード競技の小平奈緒、高木姉妹とスキージャンプの高梨沙羅選手。それとカー娘と呼ばれたカーリングの選手である。今でもその闘う姿が脳裏に浮かぶ。そのうちに、これらの選手が昆虫だったら何だろうかと、私の悪癖であるパズル解きを始めた。

× × × ×

しかし、開催時期は冬。闘う場所は雪上と氷上。このような場所で活動する昆虫はいない。このパズル解きはできないと諦めかけた。その時、ふと思った。雪も氷も溶ければ水になる。だったら水上だ。この強引なこじつけで考えた。パズルが解けた。アメンボである。雪の上と氷の上で競技している選手が、水上を疾走しているアメンボのように映ったからである。アメンボ。漢字で書けば飴棒。これが語源である。写真のように体が棒のように細長く、この体から甘い飴のような匂いを出すからである。体には長い足があり、これで水の上をスイスイ泳いだり、跳ねたりしている。餌は水面に落ちてきた昆虫や水辺で死亡している魚やカエルなどの死体。これらに口を突き刺し養分を吸汁し、餌が無くなると別の場所へ飛び立っていくのである。私はアメンボを見ると小学生の頃を思い出す。当時の道路は雨が上がると、あちこちに水たまりができ、アメンボが戯れていた。まるで童話の世界にいるようであった。今でもこの光景が脳裏に浮かび懐かしくなる。

× × × ×

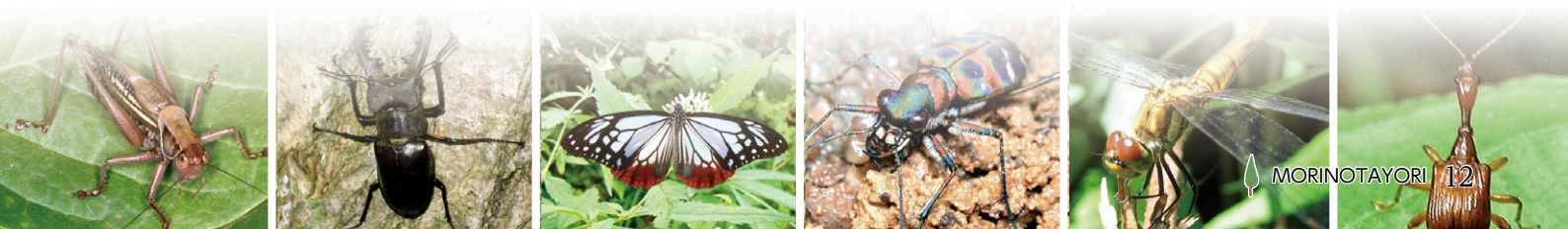
すごかったのは女子スピード競技の高木菜那、美帆姉妹と小平奈緒選手だ。この3人で金4個、銀2個、銅1個のメダルを獲ったのだからとにかくすごい。低い姿勢で氷上を滑る姿は、水上をスイスイ泳いでいるアメンボのようであった。しかし、このメダルを手にするまでには、想像を絶するような練習と、プレッシャーのかかる闘いの繰り返しだったという。その選手を雑虫と呼ばれているアメンボと一緒にするのは悪いような気がしてくる。そこで、私はアメンボの王様ということで「キングアメンボ」と命名した。女子スキージャンプの高梨沙羅選手は私の大好きな選手だ。

▲長い足のアメンボ

前回のオリンピックでは金メダル間違いないといわれていたのが、4位。その時の悲しそうな顔。今でも胸がつまる。しかし、今回は間違いなく金メダルだろうと期待した。ところが、間近になってスランプに陥り、結果は銅メダル。私はスキージャンプ世界選手権で53勝もしている高梨選手は落胆しただろうと思った。ところが「皆様に応援して頂いたお陰で、メダルがとれました」と笑顔で答えていた。そして、その後に目から涙があふれ出てきた。今回もプレッシャーという魔物が潜んでいたのか、と私も目頭が熱くなってきた。小さな体で上空を舞う沙羅ちゃん。大きなアメンボが天空を羽ばたいているように映った。

× × × ×

カーリング。私はこの競技に興味がなかった。ところが連日女子チームの熱戦がテレビで放映され、見ているうちに好きになってきた。というよりあのカー娘と呼ばれる選手たちだ。アメンボ集団が水上で戯れているようで、どの選手も表情がよかったからである。銅メダルが決まったとき、5人が抱き合って大喜びし、そして大泣き。観衆は総立ちして大歓喜。場内に響き渡っていた。このオリンピックで最も心に残る光景であった。それとカー娘たちが使っていた「そだねー」という地元の言葉。この素朴な言葉が大好評で、多くの人の心を引きつけた。私もこの言葉が好きで「そだねー、そだねー」と口ずさんでいるうちに「そうなんやさー」。いつの間にか私の故郷である飛騨弁に代わってしまった。これも素朴な言葉だと懐かしくなり、もう一度口ずさんだ。「そうなんやさー」



わがまちの森林・環境行政 18

池田町の森林づくり

池田町の森林づくりに関して紹介します。

森林の概要

本町は、岐阜県の西南（揖斐郡の南部）に位置し、東側に揖斐川と西側には池田山に挟まれた地域で、東は神戸町に南は大垣市に接しています。町の東側を北から南へ流れる揖斐川が伊勢湾へと流れています。本町の総面積は、3,879haであり、森林面積1,562haで、総面積の約40%を占めています。

森林環境税利用紹介

池田町では岐阜県の森林・環境税を活用し、児童館や小学校、池田山に対して森林づくりに関する活動を行っています。

保育園は木育を目的におもちゃや木製品の導入、小学校は森林づくりに関する施設を訪問し、間伐の役割や木工体験等を通じて森林の仕組みなどの学習に役立てています。

池田山においては、カシノナガキクイ虫予防のため、ナラ類の樹木への薬剤注入に環境税を活用し、観光地周辺の森林保護に役立てています。

▲木工体験を行う児童の様子

▲木育中の園児の様子

企業の森活動紹介

池田町は岐阜県が推進する「企業との協働による森林づくり」の一環で、平成23年に株式会社平和堂（本社・滋賀県彦根市）、池田町、六之井生産森林組合、藤代生産森林組合及び県との間で「平和の森・池田」における生きた森林づくり協定を締結し、春と秋の年2回を目標に間伐や除伐・除草・倒木除去・植栽等の活動を続けています。2・4haの区域で始めた活動も29年3月にはその区域を隣地に拡大し、合わせて3・3haの区域で活動を始めたところです。

▲参加者みんなで、「はいチーズ」

池田町森林づくり推進会議の活動紹介

池田町では、森林に関する有識者・森林所有者・森林施業者などで池田町森林づくり推進会議委員を構成し、その方々で森林に関する話し合いや活動を行っています。その主な事業活動についてご紹介します。

○池田山広葉樹（実のなる木）植栽事業

池田山はハンググライダー・パラグライダー・登山・夜景など池田山からの眺望を楽しむ方が大勢訪れる観光地となっています。この観光地周辺を中心に毎年春に、観光地景観保護、生徒の森林環境教育、林業への就業者育成などを目的に活動協定を締結している岐阜農林高校や地元池田中学校、地元の森林関係者とともにコナラやヤマグリの植栽活動を継続し、森林育成を行っています。

○中学生間伐体験教室

地元の池田中学校のこども議会からの提案を受け、活動協定を締結している岐阜農林高校、地元森林関係者、岐阜県などの森林関係機関などの協力を受け、毎年秋に実施しているものです。（公社）岐阜県森林公社の造林地を活動場所とし、間伐の体験を通じて林業就業者育成や造林地の施業支援などを目的に毎年行っているものです。

▲手のこでの間伐体験を行っています

○しいたけ菌打ち体験教室

森林の果たす役割などを体験を通じて学び、森林環境に興味と理解を深めるため、毎年行っているものです。大変な人気があり、定員制を採用しているため、残念ながら参加できない方もみえる程、町民の方の関心のある行事となっています。29年度は㈲しいたけブラザーズ代表取締役の横田さんを講師にお招きし、しいたけの栽培や菌打ち等に関して詳しい説明を受けました。

▲親子での菌打ちの様子。
将来の林業の担い手になってもらいたいものです。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0585-45-3111（代）
池田町役場建設部産業課 森林振興係まで

森林と人を活かす知恵 66

夏の暑さを防ぐには・・・緑が有効？

岐阜県立森林文化アカデミー　准教授●辻　充孝

●熱中症は家の中が危険！

これから夏を迎えるにあたり、年々増加傾向にある熱中症が気になります。倒れる場所は、外よりも家の中が多いというデータが出ています。

家の中は、どこか安心という感覚を持っていて水分補給や冷房を怠ってしまうからではないでしょうか。つまり安心と思う場所こそしっかり対策をする必要があるのです。

●暑さ対策の基本は？

暑さ対策には、いろいろな方法があります。①太陽の熱を入れないこと。②通風や扇風機で体温を下げること。(汗の蒸散効果)③閉め切って冷房をつけること。④薄着になること。(着衣量を減らすこと)などです。

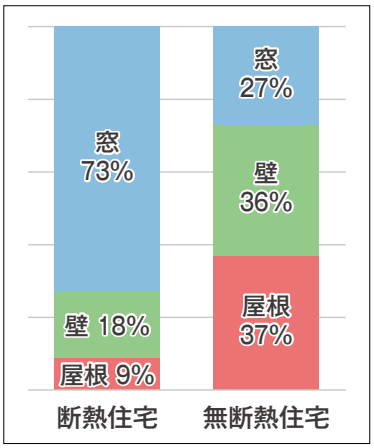
このうち、最も大切なのが①の太陽の熱を入れないこと(日射遮蔽)です。

この日射遮蔽にはコツがあります。

●太陽の暑さはどこから入る？

家の中に入ってくる太陽の熱はどこから入ってくるのでしょう。当然、窓ガラスからと思うかもしれませんがそれだけではありません。

次のグラフは、家の中に入ってくる熱バランス目安を示したものです。



無断熱住宅では、屋根・壁からが多く、断熱住宅では窓が多くなります。

太陽が当たった屋根や壁表面は80℃を超すこともあり、この熱を入れない様にするのが断熱です。ですので、断熱が入ってない家はまず屋根や壁に断熱を施すことでこの熱をある程度遮断します。断熱は冬期に熱を逃がさなくしますので一挙両得です。

断熱の次は窓対策です。窓は光や風を取り入れるため、なくすことはできませんが、この熱は減らせます。

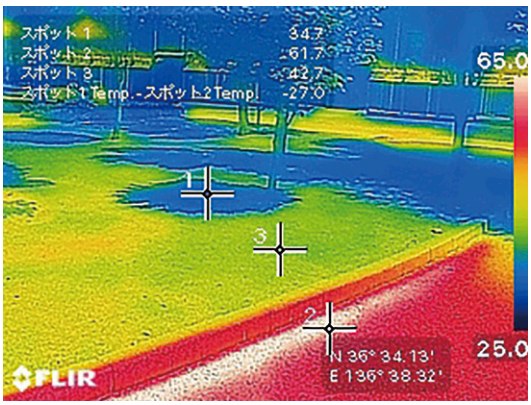
太陽のエネルギーは、ガラスを透過して、床やカーテンなどに当たると熱に変化します。その熱が窓ガラスで閉じ込められて温室のようになってしまいます。そのため、窓の外で日射を遮るのが効果的です。

●効果的に熱を遮るのは？

では、外で遮るのはどんな方法があるでしょう。すぐに思い浮かぶのが簾ではないでしょうか。簾は8割ほど日射を遮り非常に効果的です。(レースカーテンは3割程度)

ですが、簾も日射が当たるとどんどん発熱して50℃を超えます。つまり窓の外にヒーターがある状況になってしまいます。そのため簾は、ガラス面からなるべくはなすのがコツです。

さらにもっといい対策があります。緑のカーテンを丁寧に育てることです。次の熱画像を見て下さい。右下のアスファルト部分では62℃くらいまで温度が上がっていますが、芝生では日なたでも43℃と20℃も低くなっています。(日陰は35℃程度、外気温は33℃程度)



▲外部の熱画像（8月8日晴天日撮影）

植物は蒸散(汗によって体温が下がるのと同じ原理)によって、葉の温度が上がりすぎない様になっています。

そのため、日射を遮るように隙間なく葉が茂ってくれると簾よりも効果的な日射遮蔽につながります。きちんと育てるのが意外に難しいですがチャレンジし甲斐があります。

また、通風においても、庭がコンクリートだと、60℃を超す地表面を通った暑い風が入ってきますが、緑の庭だと涼しい風が吹き込みます。

このように、植物をきちんと育てることで夏期の居住環境を改善することができ、暮らしの豊かさにもつながります。これから迎える夏に向けて、緑を育ててみませんか。

●詳しい内容を知りたい方は　TEL（0575）35-2525　県立森林文化アカデミー まで

木の香る
ぎふの施設
64

内装木質化

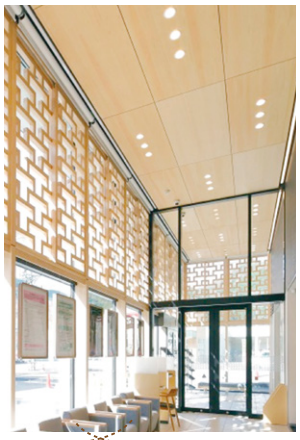
東濃信用金庫白川支店

加茂郡白川町河岐1733−3

施設全景

施設概要

事業年度	平成29年度
事業主体	東濃信用金庫
構造・延床面積	鉄筋コンクリート造　２階建て 402.62㎡
施設用途	金融機関
木材使用量 使用樹種	ぎふ証明材 内装材使用面積　43.4㎡ 使用樹種：ヒノキ
助 成 額	ぎふの木づかい施設支援事業　86千円
設 計 者	株式会社NTTファシリティーズ
施工業者	ミューズ建設株式会社
工　　期	平成29年3月～平成29年10月



吹き抜け天井

応接室

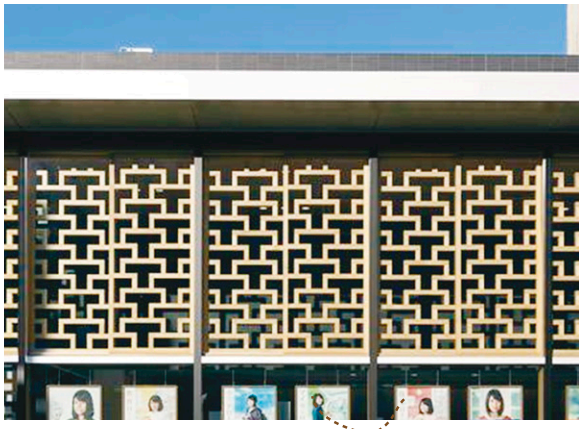
カウンター

施設の経緯

当庫白川支店の旧店舗の老朽化に伴い平成２９年11月に新築移転しました。

「地元と共にあり、ともに栄える」という企業理念の通り、地域密着型をコンセプトに白川の地の美しい自然景観を活かした外観と特産の【東濃桧】を積極的に取り入れた店舗です。

平成２９年12月に「ぎふの木づかい施設」に認定されました。



ガラス越しの欄間

ここに注目!!

- 白川町ならではの東濃桧を、欄間、カウンター、壁、棚に積極的に取り入れ、木の温かみを感じられる親しみやすい金融機関となりました。
- 「東濃」の「Ｔ」をあしらった欄間はガラス越しに外からも見ることができ、行き交う人々の目を引いてます。

利用者の様子

- 高い吹き抜け天井から差し込む光と木をふんだんに使ったデザインが調和し気持ちよく利用できると、多くのお客様に喜んでいただいています。

■問い合わせ先
東濃信用金庫白川支店
TEL 0574−72−1166

治山・林道研究課題

DEMデータを活用した土砂移動の解析

揖斐農林事務所 林業課　小森 一史

治山、林道の各研究会では、日頃の業務で直面する課題について、調査・研究を行っています。今年2月に行われた発表会で発表された研究課題を紹介します。

はじめに

航空レーザ測量とは、航空機に搭載したレーザ測距装置を使用して、精密な地表の位置と高さの情報を取得する測量方法のことを言います。現地に人が入らずとも、広範囲に精密な測量を行うことができます。岐阜県では平成27年度からこの航空レーザ測量データの成果品を活用し、治山施設点検や計画書の作成に役立てられています。

航空レーザ測量のデータを活用することにより、治山事業の円滑化につながります。そこで、航空レーザ測量データの新たな活用方法として、現地調査の代わりに、航空レーザ測量データの成果品であるDEMデータを用いて、降雨などの影響による土砂の移動量を推定し、治山計画箇所を予測する判断要素にできないか、考察しました。

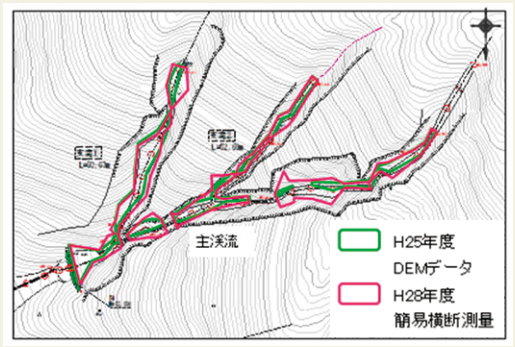
調査概要

はじめに、平成28年度に揖斐郡池田町藤代南谷地内の渓流で現地調査を行い、土砂の堆積状況、堆積範囲、土砂量を簡易横断測量にて算出しました。次に平成25年度に実施した航空レーザ測量から得られたDEMデータを解析し現地調査と同じ渓流の、土砂の堆積状況、堆積範囲、土砂量を算出し、2つのデータの比較を行いました。また、これに加え、平成26年度から平成28年度までの3年間の雨量実態、月雨量、日最大量、時間最大雨量30㎜以上の日数を調査し、降雨による土砂移動の関係を分析しました。

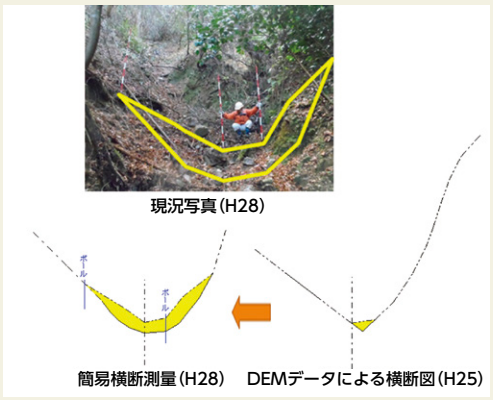
調査結果

平成28年度簡易横断測量結果及び、平成25年度DEMデータより、横断図を作成しました。また、作成した横断図の不安定土砂の堆積範囲を結び平面図を作成しました。

平面図からは一部露岩しているところを除き、渓流全体に土砂が堆積している状況が分かりました。平成28年度と平成25年度の平面図を重ねてみますと、土砂の堆積範囲が318・6㎡拡大していることがわかりました。



横断図からは土砂の堆積状況及び、平均断面法により土砂量を算出しました。両年度を比較してみていますと、平成25年度の横断図にはなかった土砂が平成29年横断図では土砂が堆積していることが確認できました。また、土砂量についても169・7㎥増加していることがわかりました。



まとめ

今回行った調査は比較的簡易かつ、安価に調査することができ、土砂の堆積範囲や、不安定土砂の変動を推定することが可能です。これにより、効果的な治山事業計画の策定が可能になります。また、対策の優先順位の判定に活用できると考察します。

最後に今後の課題です。県では山地災害危険地区を指定し、重点的に治山事業による山地災害の発生源対策を推進しています。揖斐管内では土石流が起こりやすい地区である、崩壊土砂流出危険地区うち危険度A判定の箇所が84箇所指定されています。その中での対策優先順位判定に活用するには今回調査を行った1渓流の結果のみでは、判定は難しいので、地質条件や渓床勾配の違う複数の渓流において、同様の調査を行い、その地域の傾向をつかむ必要があります。

3年間の平均年間降水量は2241㎜、日最大雨量は124㎜、時間最大水量は60㎜、時間雨量は30㎜以上の日数は4日でした。

土砂の堆積範囲の拡大や不安定土砂量の増加、堆積土砂の流出する恐れが高い渓流であり、対策が必要な渓流であることがわかります。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0585-23-1111(代)
揖斐農林事務所まで

和紙の原料コウゾの成長を、米粒サイズのヨコバイが妨げる

森林研究所●片桐 奈々

和紙の原料としてのコウゾ

コウゾは本美濃紙の原料となる植物で、クワ科コウゾ属の1種です。コウゾ生産では株に春から伸びる萌芽を約1年間育成し収穫します。この1年生枝の内樹皮が和紙の原料として用いられます。森林研究所では美濃市、コウゾ生産組合と協同し、高品質なコウゾの生産技術について調査研究してきました。

コウゾの成長を妨げる害虫たち

調査を行ううちに、コウゾ生産を邪魔する害虫が複数わかってきました。

写真1　メイガ類幼虫によるコウゾの葉の被害
矢印は、幼虫が作った巣

まず、ガの1種であるメイガ類です。幼虫がコウゾの葉を巻いて巣を作り（写真1）、その中に隠れて内側から葉を食害します。

さらに、カミキリムシ類による材の被害もみられ、株の多くに幼虫による食害痕が確認されました（写真2）。

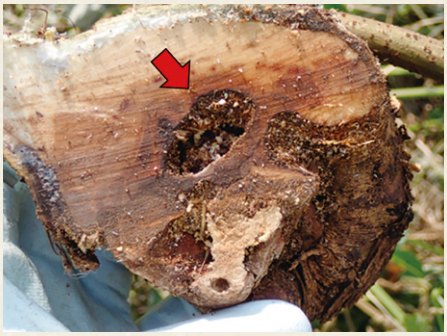


写真2　カミキリムシ類幼虫によるコウゾ株の被害
矢印は、幼虫による株の食害痕

これらよりも、現在のところコウゾ生産者が問題視しているのが、3～4㎜程度のヨコバイの1種です（写真3）。このヨコバイはストロー状の口を葉に刺し、細胞質を吸汁します。また、ヨコバイ大発生時のコウゾには縮葉が起こっていました（写真4）。このような症状はアブラムシが植物に寄生した場合にもみられ、成長が阻害されることが知られています。したがってヨコバイの大発生がコウゾの成長を妨げていると推測され、実際にコウゾ生産者は成長が良くないことを実感しているようです。

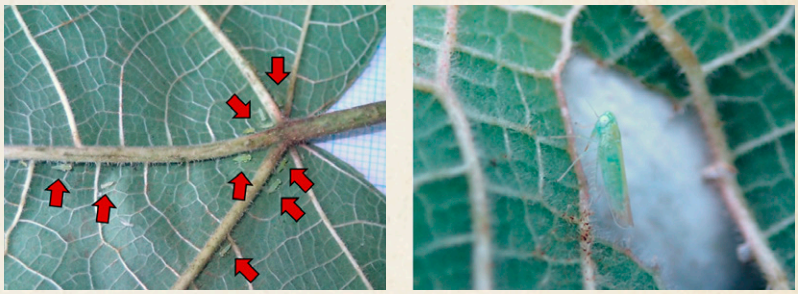


写真3　コウゾを加害するヨコバイ（*Jacobiasca furcostylus*）
左：矢印は葉裏に集まるヨコバイの幼虫
右：ヨコバイの成虫

ヨコバイを防除するために

現在（2018年4月）、コウゾに使用できる殺虫剤はありません。このため、活動が休止する冬のうちに数を減らし、春以降の大発生を少しでも抑制することが防除に有効と考えられました。そこで越冬場所を調べると、ツツジ、イヌツゲ、チャノキ、カナメモチなどの半常緑・常緑樹から成虫が採集されました。このことから、越冬場所にいるヨコバイを冬の間に捕殺する、越冬場所の半常緑・常緑樹を刈り取る等により、ヨコバイの大発生を抑制できる可能性があります。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-33-2585
森林研究所まで

写真4　ヨコバイの大発生が要因と考えられるコウゾの縮葉
左：矢印は縮葉している様子
右：縮葉した新葉。特に新葉が縮葉する傾向があった。

可茂地域における普及活動について

■可茂農林事務所　林業課　林業普及指導員　荻巣 勝俊
林業普及指導員　渡辺 公夫

平成29年度は第３期岐阜県森林づくり基本計画が策定され、その計画の柱である１００年先の森林づくりがスタートしました。

可茂地域の林業普及活動においても、１００年先の森林づくりを進める施策への取り組みを始めましたので紹介します。

１００年の森林づくり計画 ～森林配置の検討～

１００年先の森林づくりとは、望ましい森林配置への誘導や人工林の齢級構成の平準化を目指すもので、その基礎となるのが、「１００年の森林づくり計画（森林配置計画）」です。

森林配置計画では、県内の民有林を、持続的な林業経営を行う「木材生産林」と公益的機能の維持・増進をしていく「環境保全林」に区分します。併せて、必要に応じ「生活保全林」と「観光景観林」を設定します。

「木材生産林」と「環境保全林」の区分は、積雪深、傾斜、標高、土壌などの自然条件、団地としてのまとまりや林道からの距離などによる客観的な基準を設けて決定します。また、「生活保全林」は集落や生活道路に隣接する森林、「観光景観林」は観光道路沿いの優れた景観の森林に設定します。

この森林配置計画の策定は、県が一方的に決めてしまうのではなく、市町村が地域の実情を踏まえて計画案を作成し、「地域検討会」で議論をしながら決定していくこととされました。

○地域検討会のたちあげ

▲地域検討会の開催状況（御嵩町）

可茂管内の10の市町村のうち、可児市、七宗町、東白川村、御嵩町には森林管理委員会がありましたので、この４市町村では、森林管理委員会の場で検討をすることにしました。平成29年５月23日には県下のトップをきって御嵩町の地域検討会が開催され、森林配置の検討をスタートしました。

森林管理委員会のなかった６市町に対しても、委員の選定などについて助言しながら、地域検討会の開催を支援し、９月末までに10市町村すべてで第１回目の会議を開催することができました。

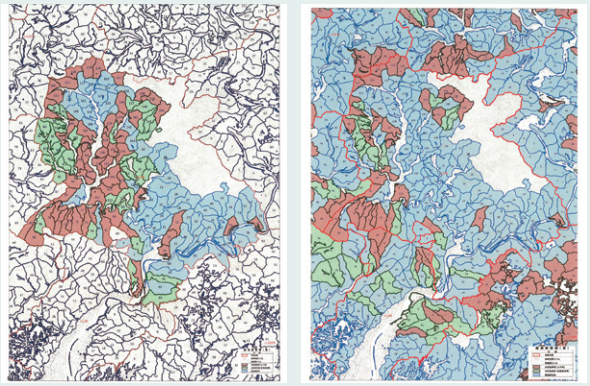
地域検討会の構成は、市町村によって人数の多少はありますが、林業・木材産業の関係者だけでなく、自治会、観光関係者、学識経験者など多様な方がメンバーになっています。

○市町村案の検討

地域検討会では、県が地域森林計画で定めた基準により作成した案をたたき台にして検討が進められました。

たとえば七宗町の地域検討会では、木材生産林を決定する県の基準の一つ「林道からの距離３００メートル未満」に着目しました。七宗町では、可茂森林組合が、平成

20年度に「健全で豊かな森林づくりプロジェクト」への取り組みを始めて以降、積極的に森林作業道の開設を行い、木材生産を増やしてきました。しかし、県の基準では、森林作業道が木材生産林を決定する条件になっていないため、出席者からは、県の案では木材生産林が少なすぎるとの意見が出されました。そこで、木材生産林を決定する基準に「作業道からの距離300メートル未満」を加えて町の案を作成しました。2回目の地域検討会に町の案を諮り、合意を得ることができました。



▲森林配置計画の案（右：県案、左：七宗町案）

○森林配置の設定

地域検討会で合意を得られた森林配置計画は、市町村森林整備計画の中に書き込まれます。坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町の5町については町全域の森林配置が決定し、平成30年4月施行の各町の市町村森林整備計画変更計画書に登載されました。

美濃加茂市、可児市、白川町、東白川村、御嵩町では、それぞれ森林の現況調査を実施したり、森林所有者の意向確認を行ったりしながら、平成30年度以降、森林配置を設定していきます。

主伐・再造林への取り組み ～実証プロジェクトの実施～

100年先の森林づくりでは、人工林の齢級構成を平準化するため、主伐と再造林による若返りを推進することも重要な課題となっています。基本計画では、平成29年度の県下の再造林目標面積345ヘクタールが掲げられました。

しかしヒノキが主体の可茂地域では、森林所有者にも「まだ主伐には早い」という思いが強いようで、林業事業体への働きかけを重ねたものの成果はあがりませんでした。

そこで、まずは公有林からということで、市町村に働きかけを行い、白川町と東白川村の町・村有林でそれぞれ「主伐・再造林実証プロジェクト」を進めることになりました。

▲現地検討会の様子

現地検討会を実施するなどして検討を重ねた結果、白川町下佐見の町有林0・82ヘクタールを事業地として決定しました。白川町森林組合が実施者となり平成30年3月末から伐採が始まっています。

今後、伐採から造林、獣害防除資材の設置までデータを収集し、分析・検証することにしています。

▲伐採の始まったプロジェクト事業地

今後について

森林配置計画の策定については、平成33年度末までに全域について設定を完了することとしており、引き続き市町村への支援を続けます。

また、主伐・再造林への取り組みについても、実証プロジェクトの結果が可茂地域の主伐・再造林の拡がりにつながるよう努めたいと考えています。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0574-25-3111(代)
可茂農林事務所　林業課まで

国有林の現場から 21

裏木曽登録ガイド制度の取組について（前編）

東濃森林管理署の取り組み

東濃森林管理署では、地元関係者と連携し地元のガイドが森林を案内する「登録ガイド制度」の確立に向けた取組を行っており、現在はまだ試行の段階ですが、これまでの経過と課題について紹介します。

はじめに

当署の管轄区域である岐阜県中津川市加子母にある加子母裏木曽国有林では、木曽ヒノキが群生するエリアを木曽ヒノキ備林として管理しています。この木曽ヒノキ備林については、日本各地から見学の依頼があり、これまでは研修や学習目的に限り、入林許可や現地案内を行ってきました。

この木曽ヒノキ備林を含む裏木曽地域一帯の国有林が、平成26年に「木曽悠久の森」に指定されたことを受け、世界的にも貴重であるこの地域の森林を活用し、エコツーリズムを通じて地域振興に貢献することを目的に、平成28年から「登録ガイド制度」の確立に向けた取組を進めてきました。

本年度に入り登録ガイド制度の確立に向け様々な過程を経て、平成29年10月から、地元の登録ガイドによる木曽ヒノキ備林等の案内を試行的に実施しています。

1 取組の過程

（1）検討体制の確立

「裏木曽登録ガイド制度」の確立にあたり検討体制を設立する必要があると考え、平成28年3月に「裏木曽エコツーリズム研究会」を立ち上げました。

研究会は当署が事務局として、裏木曽古事の森育成協議会、加子母スカイウォーカーズ、NPOつけち、中津川市（加子母・付知の各総合事務所長）、当署長を含め6名を選任し、他地域での事例を研究しつつ、裏木曽地域における有料ガイド制度の方針を整理することとしました。

研究会の会議は4回開催し、「裏木曽登録ガイド制度」実施要綱（案）の検討・作成、ガイド養成研修の内容の検討・準備を進めました。また、会議の中で運営主体は「裏木曽古事の森育成協議会」が適当との意見が纏まり、平成29年4月に開催された同協議会の通常総会でガイド活動を盛り込んだ規約の改正等が承認され、事務局が協議会に移行し「裏木曽エコツーリズム研究会」は解散しました。

（2）ガイド制度の確立と試行

①裏木曽登録ガイド候補者の選定

初回に限り協議会事務局で、ガイド登録の条件である中津川市加子母地区及び付知地区の居住者で、裏木曽地域の自然や歴史等に精通している方を地区ごとに5名程度選び、ガイド候補者11名を人選しました。

②ガイド事業実践地域の見学

登録ガイド制度の発足にあたり、平成29年7月に協議会事務局で赤沢自然休養林に出向き、実際に赤沢ガイドの方の案内方法やガイド事業の運営の仕方を学ぶための見学会を開催しました。

③裏木曽登録ガイド養成研修の開催

養成研修は当署と協議会が連携して、ガイド候補者11名を対象に3日間に分けて開催しました。

1回目は安全と自然について、2回目は歴史と制度を学び、3回目は実技としてガイド候補者が実際にガイドとして森林を案内しました。

④裏木曽登録ガイド認定証等の交付

協議会から養成研修修了者11名に対し、受講修了証及び認定証の交付及び、ガイドの統一性を図るためのヘルメット等も併せて配布し、ガイド制度の実行体制がほぼ整った状態になりました。

▲実技研修（木曽ヒノキ備林）

（7月号につづきます）

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 050-3160-5675
東濃森林管理署まで

「山の日」シンポジウム in 中津川

「山の日」の趣旨（山に親しむことや山の恵みに感謝すること）を啓発するとともに、郷土の山々の持つ豊かな自然環境を再認識し、その魅力を次世代へ継承することを目的にシンポジウムを開催します。

日　時　平成30年7月12日(木) 13:30 ～ 16:00

場　所　中津川市東美濃ふれあいセンター
（中津川市茄子川1683−797）

主　催　岐阜県、中津川市

プログラム　講演：医師、登山家　今井通子氏
パネルディスカッション
コーディネーター
NPO法人森のなりわい研究所　代表理事　伊藤　栄一氏
パネリスト
恵那神社　宮司　梅村　幸司氏
中津川市自然環境団体等連絡会議　会長　栗谷本征二氏
中津川市山岳連盟　会長　松浦　興彦氏
東濃森林管理署　署長　秋山　広氏

参 加 料　無料

【環境生活部環境企画課】　●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線(2697)環境生活部環境企画課まで

森林・林業関係イベントカレンダー（6~7月）

林業者向け

開催日	行事名等	内　容　等	開催場所 問い合わせ先
6月12日(火)～ 6月13日(水)	**伐木・チェーンソー作業従事者特別教育**	●講習時間：12日 8:30~17:40 学科 13日 8:30~17:30 実技 ●申　込：開催日の10日前まで ●受講料：18,900円（本代含む）（振込み） ●定　員：30名 （定員になり次第締め切ります。）	12日（学科） ぎふ森林文化センター（岐阜市六条江東2-5-6） 13日（実技） 岐阜県森連岐阜林産物共販所（関市倉知字物見山） 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192　FAX 058-201-1195
6月19日(火)～ 6月20日(水)	**走行集材機械の運転業務特別教育**	●講習時間：19日 9:00~16:00 学科 20日 9:00~16:00 実技 ●申　込：開催日の10日前まで ●受講料：38,880円（本代含む）（振込み） ●定　員：30名 （定員になり次第締め切ります。学科及び実技一部免除者を含む。実技は10名単位の開催となりますので実技受講者が10名以上の場合は翌日になりますのでお問い合わせ下さい。）	19日（学科） ぎふ森林文化センター（岐阜市六条江東2-5-6） 20日（実技） 関市洞戸地内山林（予定） 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192　FAX 058-201-1195
7月10日(火)～	**刈払機取扱作業者安全衛生教育**	●講習時間：9:20~15:30 学科 15:30~16:30 実技 ●申　込：開催日の10日前まで ●受講料：11,340円（本代含む）（振込み） ●定　員：30名 （定員になり次第締め切ります。）	恵那建設会館（恵那市大井町2087-276） 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192　FAX 058-201-1195
7月11日(水)～ 7月12日(木)	**伐木・チェーンソー作業従事者特別教育**	●講習時間：11日 8:30~17:40 学科 12日 8:30~17:30 実技 ●申　込：開催日の10日前まで ●受講料：18,900円（本代含む）（振込み） ●定　員：30名 （定員になり次第締め切ります。）	11日（学科）恵那建設会館（恵那市大井町2087-276） 12日（実技）岐阜県森連東濃林産物共販所 （恵那市長島町永田字城ヶ洞307-69）） 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192　FAX 058-201-1195
7月24日(火)～ 7月27日(金)	**フォークリフト運転技能講習** 受講資格： 自動車普通運転免許所持者	●講習時間：1日目　8:30~16:30 学科 16:30~17:30 学科試験 2~4日目 8:00~17:30 実技試験 ●申　込：開催日の20日前まで ●受講料：31,860円（本代含む）（振込み） ●定　員：30名 （定員になり次第締め切ります。）	学科：伊自良中央公民館（山県市大門912-1） 実技：ぎふ農協旧伊自良共選場（山県市洞田127-5） 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192　FAX 058-201-1195

コラム　COLUMN

岐阜県山林協会に来て1年が過ぎました。担当者レベルの仕事は19年ぶりで、ワード、エクセル、メールなどを使った国申請や役員会・助成事業といった協会事務にてこずりましたが、まあ何とか慣れてきました。

ところで、昨年末の国版の森林環境税（仮称）及び森林環境贈与税（仮称）の創設決定や市町村と意欲と能力のある森林所有者が中心となって森林を適切に管理していこうとする「新たな森林管理システム」が平成31年度開始を目途に、現在国で検討が進められている等今年から来年にかけて我が国の森林管理のあり方が大きく変わる可能性があり、私も注視しています。山林協会としては、森林づくりに係わる皆さんに関連情報を提供していきたいと考えています。

「森林のたより」編集長　（公社）岐阜県山林協会　瀬上 繁隆

イベント情報　7月1日発行
連載
●山の歳時記（155）
●山のおじゃまむし（324）
地域の人
清流と森と親しむ
●森林と人を活かす知恵（67）
木と親しむ
●岐阜県の公共木造建築（65）
清流の国ぎふ森林・環境税
わがまちの森林・環境行政（19）
森林・林業技術
●研究・普及コーナー
市況情報　その他
7月号予定

木材市況　県森連　岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位:円(1㎥当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	備考
第1656回 岐阜共販所 5月8日	すぎ	3m	16～18cm	12,500	―	単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格
		4m	16～18cm	11,700	―	
			20～22cm	13,800	―	
			24～28cm	12,800	―	
			30cm以上	12,200	21,100	
		6m	16～18cm	13,500	―	
	ひのき	3m	16～18cm	17,500	―	
			20cm以上	15,800	―	
		4m	16～22cm	17,500	―	
			24～28cm	14,500	―	
			30cm以上	15,000	―	
		6m	16～18cm	23,000	―	
第1232回 飛騨共販所 5月9日	すぎ	3m	16～18cm	12,000	―	
		4m	24～28cm	12,000	―	
			30cm以上	11,000	15,000	
	ひのき	3m	16～18cm	16,500	―	
		4m	20～22cm	15,000	―	
			24～28cm	14,000	―	
			30cm以上	16,000	35,000	
		6m	16～20cm	23,000	―	
	まつ	4m	24～28cm	9,000	―	
			30cm以上	9,000	―	
	ひめこ	4m	24～28cm	13,000	―	
			30cm以上	14,000	23,000	
		5m	30cm以上	―	―	
	くり	4m	24cm以上	19,000	―	
第1564回 東濃共販所 5月10日	すぎ	3m	16～20cm	12,700	13,400	
		4m	22～28cm	13,100	21,000	
			30cm以上元	13,400	21,000	
	ひのき	3m	16～20cm	17,500	25,000	
			22～28cm	14,900	29,000	
			30cm以上元	20,000	240,000	
		4m	13cm以下	9,000	―	
			22～28cm	15,500	32,000	
			30cm以上元	20,500	43,000	
		6m	18～20cm	27,600	―	
	まつ	4m	22～28cm梁	7,500	―	
			30cm以上元	10,000	―	

木材市場

全般的に横ばいで推移

【商況】

スギ4m元木良材、品薄により高値。ヒノキ並材4m土台取り強含み、造材は4m(16～22cm)が有利。ヒノキ2m元曲がりは売りづらく、合板向けの造材(袴無、矢高5cm以内)が有利。ヒノキ二番中目材は荷動きも少なく、弱含み。製紙パルプ向け針葉樹2m、3m、4mかなり不足。(岐阜)

ヒノキ二番玉中目材は荷動きも少なく、弱含み。広葉樹は良材が相変わらずの人気で強気ですが、入荷が薄い状態。マツ、ヒメコは季節柄不振。虫害が発生する季節となりましたので、速やかな納材をお勧めします。(飛騨)

ヒノキ元木、良材(高齢材及び枝打材など(特殊材))2m·3m·4m·6mは、応札多く横ばい。ヒノキ並材は3m·4m(16～28cm)横ばい、6m(16～20cm)価格安定。スギは全般的に品薄、4m元木、良材は応札も多くやや高値、二番玉並材は3m·4m(16～28cm)横ばい。枝虫材等、欠点材は売りにくい。(東濃)

製品卸売標準価格(4月期)

(単位:円)

樹種	用途	寸法(mm) 長	巾	高	等級	m³当り価格	(本(枚)単価)	前月比較
スギ	柱	3000	105	105	1等	65,000	(2,150)	→
	間柱	3000	105	30	1等	65,000	(614)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	65,000	(2,867)	→
	柱	3000	120	120	特等	60,000	(2,592)	→
		3000	120	120	(東濃桧)特等	65,000	(2,808)	→
		6000	120	120	特等	120,000	(10,368)	→
Wウッド集成材	柱	3000	105	105	国産5層	60,000	(1,980)	→
		3000	120	120	国産5層	61,000	(2,600)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場　全てKD材)

外材市況(4月期)

1㎥当り(価格単価:100円)

樹種	規格	価格	樹種	規格	価格
米松	SSタイプ	317	米栂	ヘム(アラスカ産)	299
	コースト(目荒)	324	米ひば	ポール	310

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

木材用語一口メモ

CAD/CAM

CAD(Computer Assisted Drawing)はコンピューターによって設計すること。CAM(Computer Aided Manufacturing)はコンピューターによって機械を操作すること。プレカット加工では、CADによって得られた住宅のデータが加工機に送られ、自動的に接合部を切削することを意味します。

(参考)日刊木材新聞社　木材·建築用語辞典